

■ 競技規則変更 ■ <泳法に関する箇所のみ抜粋> (2018年4月改正)

泳法等	新	旧
出発(SW4.1)	<p>(2) 出発合図員の号令 (take your marks) によって、競技者はスタート台前方に少なくとも一方の足の指を掛け、速やかにスタートの姿勢をとる。その際、両手の位置に関する制限はない。</p> <p>※take your marks の挿入</p>	<p>(2) 出発合図員の号令によって、競技者はスタート台前方に少なくとも一方の足の指を掛け、速やかにスタートの姿勢をとる。その際両手の位置に関する制限はない。</p>
背泳ぎ(SW6.1)	<p>1 出発合図がなされる前、競技者はスタート台に向き、両手でスターティンググリップを持っていないなければならない。排水溝に足を掛けたり、排水溝の縁に足の指を掛けてはならない(プールの縁、タッチ板の上端についても同様とする)。バックストロークレッジを使用する場合は、両足のつま先はタッチ板に接していないなければならない。</p>	<p>1 出発合図がなされる前、競技者はスタート台に向き、両手でスターティンググリップを持っていないなければならない。排水溝に足を掛けたり、排水溝の縁に足の指を掛けてはならない(プールの縁、タッチ板の上端についても同様とする)。バックストロークレッジを使用する場合は、つま先はタッチ板に接していないなければならない。</p>
平泳ぎ(SW7.1)	<p>1 スタート後、折り返し後の一かき目は完全に脚のところまで持っていくことができる。その間泳者は水没状態であってもよい。スタート後、折り返し後に、最初の平泳ぎの蹴りの前にバタフライキックが1回許される。二かき目の両腕が最も幅の広い部分で、かつ両手が内側に向かう前までに、頭の一部が水面上に出ないなければならない。</p> <p>※FINA Rule記載箇所変更により、SW7.4(第7条4)の一部(下線部)を移動</p>	<p>1 スタートおよび折り返し後の一かき目は完全に脚のところまで持っていくことができる。その間泳者は水没状態であってもよい。スタート後、折り返し後に、最初の平泳ぎの蹴りの前にバタフライキックが1回許される。</p>

泳法等	新	旧
平泳ぎ(SW7. 4)	<p>4 泳ぎの各サイクルの間に頭が水面上に出なければならない。ニかき目の両腕が最も幅の広い部分で、かつ両手が内側に向かう前までに、頭の一部が水面上に出ていなければならない。両脚の動作は、同時に、左右対称でなければならない。交互に動かしてはならない。</p> <p>※FINA Rule記載箇所変更により、取り消し選の箇所をSW7.1(第7条4)へ移動</p>	<p>4 泳ぎの各サイクルの間に頭が水面上に出なければならない。ニかき目の両腕が最も幅の広い部分で、かつ両手が内側に向かう前までに、頭の一部が水面上に出ていなければならない。両脚の動作は、同時に、左右対称でなければならない。交互に動かしてはならない。</p>
バタフライ(SW8. 1)	<p>1 スタートおよび折り返し後、最初の腕のかき始めから体はうつぶせでなければならない。折り返し動作中は、壁に手がついた後、うつぶせ状態でなくてもよいが、足が壁から離れたときには、うつぶせ状態でなければならない。</p> <p>※FINA Rule文言変更により「水中でのサイドキック…」の削除</p>	<p>1 スタートおよび折り返し後、最初の腕のかき始めから体はうつぶせでなければならない。水中でのサイドキックは許される。折り返し動作中は、壁に手がついた後、うつぶせ状態でなくてもよい。ただし、足が壁から離れたときには、うつぶせ状態でなければならない。</p>
メドレー競技(SW9. 2)	<p>2 自由形では、折り返しの間を除いて、うつぶせでなければならない。手のかきや蹴りを始める前に、体はうつぶせにならなければならない。</p> <p>※FINA Ruleで追加</p>	
メドレー競技(SW 9. <u>3</u>)	<p>3 メドレーリレーでは、各競技者は次の順序によって泳がなければならない。</p> <p>(1)背泳ぎ(2)平泳ぎ(3)バタフライ(4)自由形 それぞれの種目を定められた距離の4分の1ずつ泳がなければならない。</p> <p>※FINA Ruleでの文言追加(下線部)番号変更</p>	<p>2 メドレーリレーでは、各競技者は次の順序によって泳がなければならない。</p> <p>(1)背泳ぎ(2)平泳ぎ(3)バタフライ(4)自由形</p>

泳法等	新	旧
記録(SW 12.1-2)	リレーの表記 4×50m 4×100m 4×200m	200m 400m 800m